

宇城市の子供・市民は地域の宝

～笑顔とあいさつ、そして“1秒の言葉”で輝くまちづくり～

地域の
特色ある
活動

熊本県宇城市教育委員会

1 はじめに

宇城市は、平成17年に5つの町が合併して誕生しました。熊本県の中央に位置し、美しい田園風景と不知火海の文化に彩られた自然景観、そして都市機能を併せ持つ水と緑と心豊かな地域です。現在、小学校12校、中学校5校に約4,600人の児童生徒が、それぞれの学校で学びを深めています。

令和3年度の宇城市総合教育会議で、宇城市教育大綱を改正しました。基本理念を「宇城市の子供・市民は地域の宝」とし、サブタイトルは「～笑顔とあいさつ、そして“1秒の言葉”で輝くまちづくり～」と定めています。“1秒の言葉”とは「ありがとう」「気を付けて」「大丈夫」「ナイス!」など、今の時代に必要な自己肯定感や自己有用感を構築する「言葉配り」です。この“1秒の言葉”を積極的にタイミングよく掛け合うことで子供・市民一人ひとりの「意欲」を向上させ、宇城市民そして宇城市全体を輝かせたいという強い思いを込めており、この基本理念のもとに、様々な取組を行っています。

2 国際理解教育

平成21年度から「教育課程特例校」の指定を受けており、小学校1～6年生まで全ての学年で「小学校英会話科」（うきうきイングリッシュ）を実施し、21世紀の担い手となる児童の育成に取り組んできました。令和2年度からは、3～6年生は新学習指導要領の

内容どおり実施し、1・2年生が特例校として「うきうきイングリッシュ」教材を活用して「英語活動」に取り組んでいます。

また、国際交流事業として、異文化との交流や体験を通して豊かな国際感覚を身に付ける青少年の育成を目的として、毎年夏休みの期間中に、市内の中学生を対象とした海外視察研修を行っています。8月にシンガポール（ブーンレイ中学校）を訪問し、ホームステイによる生活体験や現地生徒との交流などを行い、また、11月にはブーンレイ中学校から宇城市に訪問していただき、相互に交流を実施し、国際理解及び友好親善を深めています。

令和2年度はコロナ禍のため中止としましたが、今年度は一人一台配付しているタブレット端末を活用し、オンラインでの交流を行いました。スピーチやゲームをしたり、お互いの文化について紹介するプレゼンテーションを作成・発表したりするなど、活発な交流が行われました。



オンラインでの交流（令和3年度） 現地での交流（令和元年度）

3 「論語・日本語」の素読音読教育

本市では、①「知識や知恵、語彙力の向上を図る。」②「日本語、日本の美意識、日本文化を理解する。」③「感受性、倫理観・価値観、郷土愛を醸成する。」④「考える力、

表現する力、対話する力を育成する。」ことを目指し、小中学校において、「論語・日本語」の素読音読教育を推進しています。その際に使用する学習教材は、本市の教職員がプロジェクトチームを組織し、論語、古典文学、近代文学から教材を厳選し編纂したテキストです。その後も改訂を重ね、令和3年度は第5版を増刷しました。

この「論語・日本語」テキストは、小学校4年生～中学校3年生までの児童生徒全員に配付しており、各学校では、朝自習や業間活動、授業の補助教材等として活用しています。また、家庭では、自学や親子での素読音読などに広く活用しています。補完する取組として子供たちに楽しく論語に親しんでもらうことをねらって、平成27年度から「宇城市論語カルタ大会」を開催しています。本大会は、本市教育委員会が主催し、市内各小中学校の教職員が実行委員会を組織し、運営に当たっています。大会には市内小中学校の児童生徒が、百人以上参加し、日頃の学習の成果を披露しながら親睦を深めています。



カルタ大会（令和元年度）

4 小中一貫教育推進事業

本市では、平成27年に文部科学省から小中一貫教育に関する地域指定を受け、施設一体型の豊野小中学校をモデル校として推進してまいりました。平成29年には、宇城市小中一貫教育推進計画を策定し、すべての中学校区で小中一貫教育の推進がスタートしました。9年間を見通した教育の推進により、児童生徒の学力向上を図るとともに中一ギャップの解消、いじめや不登校の解消など様々な教育課題を解決する方策としても有効な手段の一つと考えています。

令和2年度はコロナ禍のためすべての事業を中止しましたが、令和3年度は感染状況を踏まえ、できる範囲での取組を行いました。6月の第一回会議には、各学校の校長先生と

小中一貫教育コーディネーターの先生に参加いただき、今年度の方針の確認とそれぞれの中学校区ブロックでの共通実



第一回会議（令和3年度）

践事項を決定しました。また、11月の第二回会議では実践事項の進捗状況の確認、児童生徒や学校職員に対して、小中一貫教育推進に関するweb上でのアンケート調査の依頼を行いました。1月の第三回会議では、アンケート結果の報告と令和4年度に向けて、取組の方向性を確認しました。

令和3年度もコロナ感染拡大により、小中学校での授業交流等ができない状況もありましたが、今後も児童生徒の健全育成を図るため、小学校・中学校・行政が一致団結して小中一貫教育の推進を進めてまいります。

5 おわりに

新型コロナウイルス感染症の猛威のもたらす影響は大きく、それは学校現場も例外ではありません。そのような中でも、私たちは子供たちの学びを確実に保障し、学校・家庭・地域の実情等に応じた「最大限の感染予防対策」を講じながら、学校の機能を全力で維持していかなければならないと考えております。今後も続くウィズコロナの中、教育現場に新しい課題や要請が次々と生まれる一方で、私たちは、一歩踏み込んだ「誰一人取り残さない学びの保障」を実効性のあるものにするため、様々な施策を打ち出していくことが求められます。「ピンチは新しいものを創るチャンス」でもあります。艱難の中ではありますが、できる限りの対策を講じ、子供たちと先生方が笑顔で輝く宇城市の教育を進めていきます。



教育長
平岡 和徳